

■ 1 新たに展開する重要事項

1 第5次長期計画について

第5次長期計画は、2010年度から10年間にわたって展開する全学の行動計画である。

2010年度は、2009年度に策定した「グランドデザイン」並びに「アクションプラン」に基づき、大学が有する「教育」、「研究」、「社会貢献」、「大学運営」、「財政・施設整備計画」といった5つの機能毎に、それぞれ改革方を策定し、審議決定した事業から順次、実施する予定である。とりわけ、教育を重視し、教学的充実と発展を図るべく、各種施策に取り組む。

＜第5次長期計画の特色＞

これまでの計画は1期10年の「長期計画方式」であったが、第5次長期計画では計画期中における社会環境の変化や文教政策動向、さらには計画当初に展開した施策の成果と課題を踏まえ、適宜、改善を図りながらグランドデザインで掲げた「2020年の龍谷大学像」を実現すべく、1期5年の中期計画を2期にわたって展開する「中長期計画方式」を採用する。

また、事業推進を実質化させることを目的に、事業実施主体の責任をより明確にするとともに、改善サイクルを意識した事業の進捗管理に取り組む。

このように、第5次長期計画では、より大きな成果の創出を企図し、新たな推進方法や体制を取り入れたことが、従来と比較して大きな違いと新たな特徴となっている。

＜「龍谷スタンダード」の確立＞

本学学生がいずれの学部や短期大学部に所属していても、共通に備える素養や能力を「龍谷スタンダード」として定義し、これを第5次長期計画の教育分野における重要な改革施策として位置づけ、その確立に取り組む。

「龍谷スタンダード」は、本学の学士課程教育を通じて、個々の学生が建学の精神に基づいた「人間力」と共生の精神を涵養するとともに、それぞれが所属する学部や短期大学部毎に定める能力を備えることを目的としている。このことによって、豊かな人間性を育み、グローバルな世界で通用する能力を兼ね備え、社会へ貢献できる人間の育成に努めていく。

＜重要施策プロジェクトチームの設置＞

第5次長期計画の中でも、全学的な検討を要する施策や、多方面に影響を及ぼす重要な施策については、大学執行部の下に、これを検討する全学横断的な検討プロジェクトを編成する。本プロジェクトは、大学執行部、当該部局、関係する部局などから横断的に組織し、環境分析や将来性、全学への影響などの多様な観点から、実施計画を策定する。

2 政策学部・政策学研究科の設置準備(2011年4月設置)

法学部では、1992年の政治学科増設以来、政治学分野を教育の柱の一つとして位置付けて教学を展開し、NPO・地方行政コース等をはじめとする多様な取り組みは、国や地域社会から高い評価を得てきた。

このような知的資源やこれまでの活動の成果をさらに発

展させるため、本学では政治学科の教学資源を中心としながら、狭義の政治学の枠を越えた学際性を有する政治系の学部及び大学院を設置することが求められるとの認識のもと、法学部政治学科を発展的に改組することとし、2011年4月に政策学部及び政策学研究科を開設することを決定した。

2010年度は、2011年4月の政策学部及び政策学研究科の開設に向けて、文部科学省へ届出書類を提出する。併せて、魅力のある効果的なカリキュラム・授業の準備を行うとともに、積極的に広報活動を展開することによって、龍谷大学の新しい動きを社会にアピールし、政策学に対する学びの意識の高い受験生の獲得を目指す。

＜教学関係＞

魅力あるカリキュラムの構築及び授業の準備を行うとともに、履修要項等の作成及び基幹事務システムの設定等、開設に向けた準備を進めていく。また、「組織体としての教育力の向上」を教育内容の特色としていることから、教育力を高めるためのFDを系統的に展開していく。

＜募集活動＞

教職員がオープンキャンパスや入試相談会に参加し、受験生、高校教員、保護者等に直接説明を行う。また、高校・予備校や本学大学院NPO・地方行政研究コースの協定締結団体等に直接訪問して説明するなど、積極的な募集活動を行うことで、より学びの意識の高い学生の獲得を目指す。

＜広報活動＞

各種媒体を利用した広報に努め、政策学部・政策学研究科の理念や教育内容、特徴等を社会に向けて発信することで、受験生をはじめ、広くステークホルダーに対して新学部に対する関心を高める。また、開設に向けたシンポジウムなどの催しを実施し、新学部の設置を社会に向けてアピールする。

3 龍谷ミュージアムの設置準備(2011年4月開館)

創立370周年記念事業の一環として開設する「龍谷ミュージアム」は、釈尊の誕生から現代の仏教までをわかりやすく紹介する、他に例のない仏教に関する総合博物館で、2011年4月の開館を予定している。建物は地上3階地下1階の延床面積4,390㎡から成り、私立大学が設置する美術館や博物館としては、トップクラスの規模となる。



龍谷ミュージアム完成イメージ図

<建築計画>

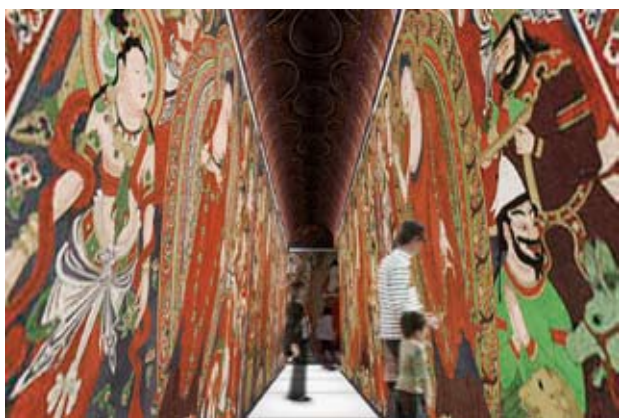
現在、本願寺会館と本願寺同朋センターの跡地に、「龍谷ミュージアム」の新築工事を行っており、2010年9月初旬に竣工する予定である。

<展示計画>

展示設備については、2010年度中に制作及び設置を完了する予定である。また、「釈尊と親鸞（仮称）」をテーマとしたオープニング特別展の開催を予定しており、展示構成を検討するとともに、関連資料を所蔵する機関等への出陳要請を行っていく。

<調査・研究活動の推進>

開館前年度となる2010年度は、教育・研究機関としての龍谷ミュージアムを確立し、館長・副館長・ミュージアム教員を中心とした組織体制のもと、展示に向けた調査・研究をはじめとする諸活動を積極的に推進する。



展示室内 ベゼクリク石窟寺院復元コーナー

4 短期大学の改組準備（2011年4月改組）

短期大学部は、これまでの社会福祉学教育の実績を礎とし、2011年4月から、社会福祉科を社会福祉学科に名称変更すべく文部科学省への届出の手続きを進めるとともに、社会的なニーズに鑑み、教学内容を「社会福祉コース」「教養福祉コース」の2コース制へと整備する。また、2011年4月のこども教育学科の開設に向け、設置認可申請の手続きを行うとともに、新たな教育・研究を展開するための教学体制を整備する。これらの学科改組の概容を積極的かつ効果的に周知するため、Webサイトのリニューアルやパンフレットの改訂を行い、より多くの受験生及び関係者の理解を深める。

<社会福祉科の改編（2011年4月改編・名称変更予定）>

社会福祉学科の教学展開については、幅広い教養の修得やスムーズな編入学の実現が可能となるよう、柔軟なカリ

キュラムの構築を目指していく。4年制学部への編入学については、指定校推薦枠について、他学部との調整を重ねながら推薦条件等の整備を図る。

<こども教育学科の設置認可申請>

「こども教育学科」については、従来の保育士資格に加えて、幼稚園教諭二種免許状の取得が可能となる。これに伴い、幼稚園実習を新設するなど、初等教育における教職課程の教学体制について整備を行う。

<施設の整備（多目的ルーム、実習指導室）>

こども教育学科の設置に伴い、より充実した授業を展開するために、こども教育学に関連する施設・設備の充実を図る。併せて、幼稚園教諭の養成教育のため、幼稚園教諭に関する教職課程教室の機能（資料配置スペースや学生指導スペースの確保）を有した実習指導室の整備を進めていく。

5 教育・研究環境の充実

<アバンティホールの運用開始>

JR京都駅南側のアバンティビル9階にあるアバンティホールを、2010年4月に京都市から取得し、2010年度初月から本ホールの運用を開始する。学友会館大ホールとほぼ同じ規模の同ホールでは、充実した設備と交通至便な立地を活かし、課外活動をはじめとする学内活動の場として多様な利用を展開していく。また、引き続き、地域住民をはじめ市民の利用にも供するほか、市民と大学が共同で取り組む新たなプログラム展開も模索していく。

<大宮学舎における新棟の建設>

大宮学舎における研究施設の整備を図ることを目的に、清風館南側飛び地に新たな施設を建設することとする。ただし、本施設の建設は、本学が行う研究プロジェクトが、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業として採択されることが前提となる。

<情報化促進政策の推進>

2009年度、龍谷大学教職員約40名からなるタスクチームを編成し、「大学全体の情報化促進政策に基づく6つのプログラム（①学生と大学との双方向コミュニケーションを活性化するプログラム／②新たな学びのスタイルを提供するプログラム／③情報を扱う上での全学法令遵守プログラム／④卒業生、保護者、入学生との連携プログラム／⑤事務システムを安全・効率的に再構築するプログラム／⑥開かれた情報ツールと全体を統括する基盤システム）」を策定した。

2010年度も引き続き、学生や各部署のニーズを確認しながら、検討を図り、プログラムの事業展開を推進していく。